

具体的施策の個別評価について

## 重要業績評価指標（KPI）

### 基本目標Ⅰ 生き生きと働けるしごとを創る

#### 具体的施策（1）地域経済をけん引する産業競争力の強化

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2014年度)	実績値					目標値 (2019年度)	達成状況
		(2015年度)	(2016年度)	(2017年度)	(2018年度)	(2019年度)		
マッチング会参加企業数 (累計)	—	38社	44社	82社	120社	142社	200社	71% 一部達成
商店街活性化事業に取り 組む団体数(年間)	10団体	10団体	12団体	13団体	14団体	12団体	15団体	40% 未達成

5年間の取組事業	主な取組	取組内容とこれまでの成果	今後の取組方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>産業交流機会の創出</li> <li>技術力、競争力強化・支援</li> <li>商店街活性化の推進</li> <li>既存事業者の事業拡充等への支援</li> <li>6次産業化の推進</li> <li>農産物のブランド化の推進</li> <li>地産地消の推進</li> <li>優良農地の維持・保全</li> <li>住宅リフォームの促進</li> </ul>	産業交流機会の創出	金融機関等主催のビジネスマッチング会参加を促進するとともに、事業者の販路拡大支援制度を2018年度に新設した。本制度の活用によりマッチング(2018年度3件、2019年度8件)が図られ、産業交流機会の増加に寄与した。	事業者が販路拡大、新商品開発に取り組みやすい環境づくりに向け、引き続き、支援制度の更なる活用を進めるほか、金融機関等との連携を強化しながら、マッチング会の市内への誘致をはじめとした事業者の参加促進を図る。
	商店街活性化の推進	商店街活性化に向け、各商店街団体が実施する自主事業を支援した。計画期間内で延べ61団体に補助金を交付したことで取組が促進され、商店街の活力の向上、にぎわいの創出に寄与した。	各商店街団体の事業内容の恒常化が課題であり、まちのにぎわいの創出に向け、補助制度のあり方を検討しながら、各商店街団体が効果の高い取組を行えるよう支援していく。
	農産物のブランド化の推進	食用梅の産地化を促進するため、梅生産者の施設整備を支援し、計画期間内で栽培面積が2.7haに拡大した。あわせて、菓子メーカー等が行う商品開発・販売を支援し、「ふくゆい」のブランド力の向上に寄与した。	市内梅の生産量の増加に向け、引き続き、栽培面積の拡大に取り組むとともに、「ふくゆい」のさらなるブランド力向上を目指し、各種メディアにおけるPR、菓子メーカー等との連携強化を図る。

## 具体的施策（２） 観光産業の振興，観光消費の拡大

重要業績評価指標 (K P I)	基準値 (2014 年度)	実績値					目標値 (2019 年度)	達成状況
		(2015 年度)	(2016 年度)	(2017 年度)	(2018 年度)	(2019 年度)		
梅まつり入込観光客数	522,800 人	491,500 人	587,300 人	521,800 人	523,100 人	194,200 人	650,000 人	0%未満 未達成
市内外国人宿泊者数 (年間)	15,421 人	21,298 人	32,743 人	31,580 人	36,001 人	41,987 人	18,400 人	892% 達成

5 年間の取組事業	主な取組	取組内容とこれまでの成果	今後の取組方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>・偕楽園・千波湖周辺の魅力づくりの推進</li> <li>・弘道館・水戸城跡周辺の魅力づくりの推進</li> <li>・ロマンチックゾーンの魅力づくりの推進</li> <li>・森林公園周辺における自然資源等を活用した魅力づくりの推進</li> <li>・まちなかイベントの開催</li> <li>・戦略的イベントの展開と各種まつりの充実</li> <li>・水戸の花絵巻事業の推進</li> <li>・回遊性を高める機能強化と魅力づくりの推進</li> <li>・広域連携による観光地づくりの推進</li> <li>・国際観光の推進</li> <li>・体験・交流型観光の充実</li> <li>・コンベンション誘致活動の推進・強化</li> <li>・観光特産品の魅力向上と観光産業の強化・育成</li> <li>・多様な情報発信の推進</li> <li>・戦略的な観光PR活動の推進</li> <li>・フィルムコミッションの充実</li> <li>・おもてなし力の向上</li> </ul>	戦略的イベントの展開と各種まつりの充実	梅まつりについては、各種メディアによる積極的なPR活動のほか、梅酒まつり、夜・梅・祭等の開催に加え、水府提灯を活用した新たな取組も行い、にぎわいの創出を図った。2019 年度については、新型コロナウイルスの影響により、観光客数の大幅な減少となった。	梅まつりについては、集客数が天候等に左右されてしまうことが課題であり、観光交流人口の拡大に向け、偕楽園の有料化に伴う集客等への影響を十分に考慮しながら、県をはじめとする関係機関と連携し、企画内容の一層の充実を図り、集客力を高める。
	国際観光の推進	体験プログラム等の積極的な情報発信、受入環境の整備を進め、外国人観光客の増加に寄与した。また、水戸市インバウンド推進機構を立ち上げ、市内事業者と連携した推進体制を強化した。	東アジア等からの誘客促進に向け、引き続き、県央地域も含め、事業者と連携を強化しながら、インバウンド推進機構を中心に、情報収集、受入環境の充実、観光PRの強化を推進していく。
	体験・交流型観光の充実	体験プログラムをリスト化し、HPで公開したほか、パンフレットを活用し、団体、個人旅行者向けにPR活動を行った。また、県及び事業者と連携し、好文亭にてイベントを開催するなど、体験・交流型観光の促進を図った。	体験プログラムのさらなるPR、水戸らしいプログラムの創出が重要であることから、引き続き、事業者と連携を強化しながら、イベントを開催するほか、補助制度の創設など、事業者を支援しながら、体験・交流型観光を推進する。

### 具体的施策（3） 多様な雇用の場の創出

重要業績評価指標 (K P I)	基準値 (2014 年度)	実績値					目標値 (2019 年度)	達成状況
		(2015 年度)	(2016 年度)	(2017 年度)	(2018 年度)	(2019 年度)		
創業支援事業計画推進事業等による新規創業件数 (累計)	41 件	100 件	160 件	246 件	323 件	426 件	200 件	242% 達成
企業誘致による立地事業所数 (累計)	—	3 事業所	9 事業所	13 事業所	14 事業所	18 事業所	25 事業所	72% 一部達成

5 年間の取組事業	主な取組	取組内容とこれまでの成果	今後の取組方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 創業支援の充実</li> <li>・ 店舗開業・出店の推進</li> <li>・ 企業誘致の促進</li> <li>・ ベンチャービジネスの育成・支援</li> <li>・ 産学官連携による産業の活性化</li> <li>・ U J I ターンの促進</li> <li>・ 地元企業の雇用の促進</li> <li>・ 遊休不動産を活用したにぎわいづくりの推進</li> <li>・ 認定農業者等担い手の確保・育成</li> <li>・ 医療・福祉分野における人材の確保、雇用の促進               <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 産婦人科等の医師の確保</li> <li>▶ 看護師の確保</li> <li>▶ 介護従事者の確保</li> <li>▶ 保育士の確保</li> </ul> </li> </ul>	創業支援の充実	水戸商工会議所などの創業支援事業者との連携のもと、セミナーや相談会を開催するなど、各種創業支援事業を推進するとともに、創業後の安定的な事業継続に向けた支援を実施し、新規創業件数の増加に寄与した。	新規創業者のさらなる増加に向け、引き続き、本事業を実施するとともに、創業者の安定的な経営の継続が重要であることから、関係機関と連携し、創業後の継続的な支援の充実に努めながら、創業者に対して適切な支援を行う。
	企業誘致の促進	市外からの移転立地等に向け、企業誘致コーディネーターを活用し、補助制度及び課税免除制度の利用促進、誘致活動等を行い、事業所の立地につなげ、雇用の創出や設備投資に寄与した。	経済の活性化、就業機会の拡充に向け、本事業を継続するとともに、一定規模以上の工業用地の確保が重要であることから、関係課と調整を行いながら、企業の誘致先について検討を進める。
	医療・福祉分野における人材の確保、雇用の促進	保育士就労支援補助制度に加え、新卒保育士への補助制度を創設したほか、民間保育所等と合同で就職説明会を開催し、市内保育所等に 48 人の学生が就職するなど、人材確保に寄与した。	保育士不足等により保育所等が定員まで児童を受け入れることができていない状況にあることから、引き続き、補助制度の P R 強化や就職説明会の開催等に取り組み、さらなる人材確保を図る。

### 具体的施策（４） 女性や高齢者等の活躍支援

重要業績評価指標 (K P I)	基準値 (2014 年度)	実績値					目標値 (2019 年度)	達成状況
		(2015 年度)	(2016 年度)	(2017 年度)	(2018 年度)	(2019 年度)		
政策決定過程に参画する女性の割合(審議会等女性委員割合)	31.2%	33.8%	32.0%	32.6%	35.0%	34.0%	35.0%	74% 一部達成
スキルアップセミナー参加者数(年間)	40人	39人	25人	43人	61人	70人	100人	50% 一部達成

5年間の取組事業	主な取組	取組内容とこれまでの成果	今後の取組方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性の活躍推進に向けた環境づくり</li> <li>・オープンデータ活用による女性の活躍の支援</li> <li>・中高年齢者、若年者及び女性等の雇用の促進</li> <li>・障害者の雇用の促進</li> </ul>	女性の活躍推進に向けた環境づくり	女性議会や市長と女性起業家の行政懇談会など、女性が政策決定過程に参画する機会の拡充に寄与した。また、各種セミナー等を開催し、女性が活躍できる環境に向けた意識啓発の充実を図った。	女性が活躍できる環境づくりに向け、審議会への女性の選任をはじめ、市政に関する情報発信の強化に努めるなど、地域の活性化やまちづくりへの女性の参画を推進する。
	中高年齢者、若年者及び女性等の雇用の促進	就労希望者等を対象に、パソコンスキル等の向上に資するセミナーの開催とともに、就労支援・事業情報の発信による中小企業とのマッチング機会の提供など、雇用の促進を図った。	中高年齢者、若年者及び女性の雇用促進に向け、幅広く情報発信するとともに、利用者ニーズを踏まえた、企画内容の充実を図りながら、スキルアップセミナーを実施する。
	障害者の雇用の促進	障害者就労支援事業として、就労継続支援施設を対象に、商品力向上セミナーを開催する(2016年度～2019年度延べ参加者数98人)など、障害者の工賃向上を目指す取組を行った。	市内事業所における目標工賃の達成に向け、引き続き、企画内容の充実を図りながら研修会を実施し、障害者就労支援に取り組む。

**基本目標Ⅱ 新たなひとの流れを生み出す**

**具体的施策（１） 水戸への移住・定住の推進**

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2014年度)	実績値					目標値 (2019年度)	達成状況
		(2015年度)	(2016年度)	(2017年度)	(2018年度)	(2019年度)		
中心市街地（都市核）の 居住人口	17,297人	16,918人	16,857人	16,697人	16,834人	16,694人	18,800人	0%未満 未達成
まちなか住替え支援事 業利用件数（累計）	—	—	2件	12件	43件	58件	280件	21% 未達成

5年間の取組事業	主な取組	取組内容とこれまでの成果	今後の取組方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>まちなか住替えの推進</li> <li>住宅リフォームの促進</li> <li>住生活支援情報の提供</li> <li>民間住宅活用型市営住宅の供給</li> <li>まちなか共同住宅の整備の促進</li> </ul>	まちなか住替えの推進 (まちなかライフスタイル 発信事業)	民間まちづくり会社が実施するまちなかのライフスタイルを発信するホームページ運営やプロモーション冊子の発行について支援し、まちの魅力を発信し、中心市街地のイメージアップと活力向上に取り組んだ。	<p>中心市街地の居住人口を増やし、都市核を活性化させることで定住人口を増加させるため、各種支援制度の情報発信に努めるとともに、事業者等と連携しながら、まちのイメージアップ、にぎわいの創出や活力向上につながる施策を総合的に展開する。</p> <p>また、まちなか住替えの支援については、エリア内に子育て世帯向けの住宅が少ないという課題があることから、対象区域の拡大を行い、新たな制度として見直しを行ったところであり今後周知を図っていく。</p> <p>さらに、まちなか共同住宅の整備については、補助要件の見直しを国に働きかけながら、支援制度の活用に向けて周知を図り、まちなかへの住替え支援に努める。</p>
	まちなか住替えの推進 (子育て世帯まちなか住替え支援事業)	子育て世帯がまちなかに住替えを行う際の支援制度を創設し、周知に努めることで住替えを促進し、4年間で58世帯 214人の中心市街地への住替えにつながった。	
	まちなか共同住宅の整備の促進	まちなか共同住宅を整備する事業者の募集を行った。問合せはあるものの、補助要件を満たす案件ではなかったため、採択には至らなかった。	

## 具体的施策（２） 芸術文化・スポーツ文化の交流によるにぎわいの創出

重要業績評価指標 (K P I)	基準値 (2014 年度)	実績値					目標値 (2019 年度)	達成状況
		(2015 年度)	(2016 年度)	(2017 年度)	(2018 年度)	(2019 年度)		
大規模スポーツ大会（東日本大会以上）の開催数（年間）	9 大会	10 大会	10 大会	9 大会	10 大会	11 大会	13 大会	50% 一部達成
コンベンション誘致・支援数（年間）	57 件	78 件	125 件	178 件	146 件	123 件	80 件	287% 達成

5 年間の取組事業	主な取組	取組内容とこれまでの成果	今後の取組方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民主体の芸術文化活動の促進</li> <li>・ 水戸芸術館を中心としたまちのにぎわいづくりの推進</li> <li>・ 水戸芸術館パートナーシップ制度の導入、推進</li> <li>・ オセロの聖地・みと・発信プロジェクトの推進</li> <li>・ 水戸ならではのスポーツ大会の開催</li> <li>・ 水戸黄門漫遊マラソンの開催</li> <li>・ 第 74 回国民体育大会の開催に向けた取組の推進</li> <li>・ コンベンション誘致活動の推進・強化</li> <li>・ スポーツ施設・環境の充実</li> <li>・ (仮称) 東部公園の整備</li> <li>・ 新たな市民会館の整備</li> <li>・ 泉町 1 丁目北地区市街地再開発事業等の推進</li> </ul>	<p>水戸ならではのスポーツ大会の開催</p> <p>コンベンション誘致活動の推進・強化</p>	<p>市民がトップレベルの競技にふれることのできる機会の拡充に向け、国際・全国規模の大会やスポーツイベントの開催・誘致に取り組み、交流の拡大に寄与した。また、第 74 回国民体育大会については、市民等との協働による様々な事業等を着実に実施し、95,893 人の来場につながった。</p> <p>県内主要団体に加え、都内（本部）への営業活動を継続的に行うなど（訪問件数：726 件、うち本部：32 件）、誘致・支援活動を積極的に実施した。また、専門人材の育成・確保に努めるとともに、開催助成金の拡充を図りながら、コンベンション開催支援に取り組み、誘致支援 123 件、ネットワーク構築 1,968 件の成果につながった。</p>	<p>交流人口の拡大、にぎわいの創出に向け、コンベンション推進協議会において、県や宿泊施設等と連携し、受入体制を強化するとともに、主催者ニーズに応じた支援策の充実、水戸独自のユニークベニューの開発及びプラン化に取り組み、インセンティブを一層向上させながら、コンベンション誘致・支援活動を戦略的に展開する。特に、アダストリアみとアリーナが開館し、新市民会館の整備も予定され、大規模会議、スポーツ大会等の誘致が可能となるなど、コンベンション機能の強化が図られることから、主催者等へ積極的に情報を発信し、さらなる誘致活動を実施する。</p>

### 具体的施策（3） 水戸らしい風格ある歴史まちづくりの推進

重要業績評価指標 (K P I)	基準値 (2014 年度)	実績値					目標値 (2019 年度)	達成状況
		(2015 年度)	(2016 年度)	(2017 年度)	(2018 年度)	(2019 年度)		
偕楽園の年間入込観光客数（年間）	958, 213 人	996, 439 人	994, 443 人	1, 051, 918 人	974, 040 人	945, 772 人	1, 120, 000 人	0%未満 未達成
弘道館の年間入込観光客数（年間）	58, 886 人	67, 799 人	76, 508 人	98, 729 人	87, 164 人	75, 406 人	110, 000 人	32% 未達成

5 年間の取組事業	主な取組	取組内容とこれまでの成果	今後の取組方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>・偕楽園・千波湖周辺の魅力づくりの推進</li> <li>・弘道館・水戸城跡周辺の魅力づくりの推進</li> <li>・ロマンチックゾーンの魅力づくりの推進</li> </ul>	偕楽園・千波湖周辺の魅力づくりの推進	観光客数の増加は見られなかったものの、エリア内における多様なイベントの開催、効果的なPR活動の展開をはじめ、ライトアップ事業や千波公園等の整備に取り組んだことにより、魅力の向上につながった。	通年型の観光地づくりが課題であり、偕楽園の有料化に伴う集客等への影響を十分に考慮しながら、県等の関係機関と連携し、民間活力を活用した施設整備やイベント内容の充実に取り組み、さらなる魅力の向上を図る。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界遺産登録に向けた取組の推進</li> <li>・魅力ある景観の形成</li> <li>・偕楽園公園（千波公園等）の整備</li> <li>・弘道館・水戸城跡周辺地区における歴史まちづくりの推進（歴史・観光ロード整備等）</li> <li>・ロマンチックゾーン（保和苑）の整備</li> </ul>	弘道館・水戸城跡周辺の魅力づくりの推進	周辺道路整備等の歴史景観づくりに取り組んだほか、散策ルートの作成・PR、弘道館と連携したイベントの実施等により、観光客数の増加に寄与した。また水戸城大手門、弘道館東側広場の整備により、魅力の向上につながった。	観光客のさらなる周遊促進や消費喚起が課題であり、歴史を生かした観光地づくりに向け、二の丸角櫓の整備を進めるとともに、PR活動を強化しながら、スタンプラリーや飲食イベントなど、地域資源を活用した取組を積極的に実施する。
	ロマンチックゾーンの魅力づくりの推進	地元住民や周辺史跡と連携しながら、あじさいまつりを開催するとともに、参道的美装化による道路景観整備、保和苑のリニューアル整備を進め、魅力の向上を図った。	さらなる賑わいの創出に向け、地域と連携し、積極的にPR活動を行いながら、あじさいまつりの充実に努めるとともに、保和苑の再整備を進め、ゾーンの魅力づくりを推進する。



#### 具体的施策（４） 水と緑の潤いある拠点の形成

重要業績評価指標 (K P I)	基準値 (2014 年度)	実績値					目標値 (2019 年度)	達成状況
		(2015 年度)	(2016 年度)	(2017 年度)	(2018 年度)	(2019 年度)		
森林公園来園者数 (年間)	160,000 人	178,126 人	186,175 人	191,947 人	193,550 人	199,141 人	208,000 人	82% 一部達成
七ツ洞公園来園者数 (年間)	59,345 人	63,088 人	54,795 人	73,440 人	72,350 人	52,375 人	81,000 人	0%未満 未達成

5 年間の取組事業	主な取組	取組内容とこれまでの成果	今後の取組方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森林公園周辺における自然資源等を活用した魅力づくりの推進</li> <li>・ 七ツ洞公園の魅力づくり</li> <li>・ 水戸の花絵巻事業の推進</li> <li>・ 魅力ある景観の形成</li> <li>・ 森林公園の整備</li> <li>・ 大塚池公園の整備</li> <li>・ 千波湖の水質浄化の推進</li> </ul>	森林公園周辺における自然資源等を活用した魅力づくりの推進	市民参加の植樹祭，農業体験，学官連携による集客プロジェクト事業など，豊かな自然環境を生かしたイベントを積極的に展開するとともに，森林公園の再整備を進め，来園者数の増加に寄与した。	さらなる来園者の増加に向け，森林公園の再整備に取り組み，来園者の利便性を高めるとともに，引き続き，周辺施設等と連携しながら，自然体験イベントの充実を図るなど，さらなる魅力づくりを推進する。
	七ツ洞公園の魅力づくり	英国式庭園を生かしたイベントの開催や施設整備により，誘客や魅力発信に取り組み，来園者数の増加が図られてきたが，2019 年度については，台風の影響によるイベント中止のため，大幅な減少となった。	園路のバリフリー化等に取り組み，来園者の利便性を高めるとともに，引き続き，民間主体の実行委員会を支援し，英国式庭園を生かしたイベント，PR活動の充実を図るなど，さらなる魅力づくりを推進する。
	千波湖の水質浄化の推進	千波湖への導水施設整備，アオコ対策事業などの取組を進めるとともに，市民との協働によるビオトープ整備の取組を推進してきたことにより，以前よりも水質の改善が図られた。	さらなる水質浄化に向けて，国，県，市民団体等と連携し，水質浄化に資する事業を継続的に実施するとともに，霞ヶ浦導水事業の進捗に併せて，千波湖への導水施設の整備を推進する。

基本目標Ⅲ 水戸の未来をリードする若い世代の夢や希望を応援する

具体的施策（１） 若い世代へのキャリア支援の推進

重要業績評価指標 (K P I)	基準値 (2014 年度)	実績値					目標値 (2019 年度)	達成状況
		(2015 年度)	(2016 年度)	(2017 年度)	(2018 年度)	(2019 年度)		
U J I ターン企業説明 会参加企業数（年間）	—	—	—	21 社	54 社	65 社	50 社	130% 達成
地元企業セミナー参加 者数（年間）	—	—	—	—	—	55 人	200 人	27% 未達成

5 年間の取組事業	主な取組	取組内容とこれまでの成果	今後の取組方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ U J I ターンの促進</li> <li>・ 地元企業の雇用の促進</li> <li>・ 創業支援の充実</li> <li>・ ベンチャービジネスの育成・支援</li> <li>・ 若年者及び女性等の雇用の促進</li> <li>・ 産学官連携による産業の活性化</li> <li>・ 女性の活躍推進に向けた環境づくり</li> <li>・ 認定農業者等担い手の確保・育成</li> <li>・ ボランティア団体, N P O 等の活動の活性化</li> <li>・ 困難を抱える若者への社会参加の促進</li> <li>・ キャリア教育の推進</li> </ul>	U J I ターンの促進	県外の大学に進学した学生等に対する企業説明会の開催など、県やハローワークとの連携事業を実施するとともに、県内外の大学等へ企業ガイドブックを配布し、市内企業の情報発信を行い、U J I ターンを促進した。	若い世代の地元での就業機会の拡大に向け、引き続き、県やハローワーク等と連携し企業説明会を開催するほか、高校生・大学生向けの企業ガイドブックの掲載内容の充実を図り、地元企業の情報発信に取り組む。
	地元企業の雇用の促進	市内大学において、地元企業セミナーを開催するほか、インターンシップを実施する企業に対する支援策の創設など、人材の確保に取り組んだ。	また、地元企業セミナーの開催回数の増加や内容の充実に努めるとともに、体験型職業セミナーについては、他市事例等の調査及び類似事業を行う商工会議所との連携など、引き続き開催に向けて検討を進める。
	ベンチャービジネスの育成・支援	コワーキングスペースを設置・運営し、創業希望者へ事業場所を提供するとともに、創業相談員の配置や各種セミナーの開催等の取組により、安定的に施設が利用されており、新規創業件数の増加に寄与した。	創業希望者に対する継続的な支援の実施に向けて、コワーキングスペースを中心とした支援体制の強化を図り、ベンチャービジネスを育成・支援する取組を継続する。

## 具体的施策（２） 安心して子どもを生み育てることのできる環境の充実

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2014年度)	実績値					目標値 (2019年度)	達成状況
		(2015年度)	(2016年度)	(2017年度)	(2018年度)	(2019年度)		
市民センター子育て広 場開設数（累計）	10 か所	12 か所	14 か所	16 か所	20 か所	23 か所	20 か所	130% 達成
開放学級における待機児 童がいない学校数(累計)	24 校	13 校	18 校	15 校	18 校	26 校(※)	33 校	22% 未達成

※ 2020年4月1日現在、33校

5年間の取組事業	主な取組	取組内容とこれまでの成果	今後の取組方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所待機児童の解消</li> <li>・ 多様な子育て支援の推進               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交流の場の提供</li> <li>・ 子育てニーズへのきめ細かな対応</li> <li>・ ひとり親家庭等への支援の充実</li> </ul> </li> <li>・ 放課後児童対策の推進</li> <li>・ 妊産婦支援の充実</li> <li>・ 出産・子育てしやすい医療環境づくりの推進               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 結婚支援の推進</li> <li>・ オープンデータ活用による女性の活躍の推進</li> </ul> </li> </ul>	多様な子育て支援の推進	市民センター子育て広場を計画的に開設し、地域団体の協力により、乳幼児と保護者同士が交流する居場所づくりを進め、地域における子育て支援を推進した。	乳幼児と保護者同士の交流の場を提供するため、引き続き、地域団体の協力を得ながら、市民センター子育て広場の開設・運営に取り組むとともに、利用者の増加に向け、周知・運営内容等の充実に努める。
	放課後児童対策の推進	開放学級における待機児童解消に向け、受入対象学年の拡大や施設の整備のほか、民間委託化を通じた支援員の安定的な確保などに取り組み、本年4月1日現在において、待機児童ゼロを達成した。	児童の安全・安心な放課後等の居場所づくりに向け、開放学級について、快適な環境の整備を図るほか、民間活力の活用を全校へ拡充し、支援員の確保、事業内容の充実等を図る。
	出産・子育てしやすい医療環境づくりの推進	子どもの医療費助成の拡充により、子育て世帯の負担軽減を図るとともに、産婦健康診査事業、不妊・不育症治療費助成事業を実施するなど、安心して子どもを生み育てることができる環境づくりを推進した。	出産・子育てしやすい医療環境づくりのさらなる推進に向け、事業の周知に努めながら、引き続き、本事業を実施する。

### 具体的施策（3） 未来を切り拓（ひら）く力を育む水戸スタイルの教育の推進

重要業績評価指標 (K P I)	基準値 (2014 年度)	実績値					目標値 (2019 年度)	達成状況
		(2015 年度)	(2016 年度)	(2017 年度)	(2018 年度)	(2019 年度)		
放課後学力サポート事業導入校数（累計）	1 校	7 校	11 校	18 校	23 校	28 校	15 校	193% 達成
学力診断のためのテスト (県) の総合得点の平均 点(対県平均との比較)	[小 6]+1.9 点 [中 3]+12.5 点	[小 6]-3.4 点 [中 3]+10.1 点	[小 6]-2.0 点 [中 3]+8.8 点	[小 6]+4.1 点 [中 3]+6.6 点	[小 6]+1.0 点 [中 3]+4.8 点	[小 6]-13.4 点 [中 3]+1.4 点	[小 6]+6 点 [中 3]+21 点	0%未満 未達成

5 年間の取組事業	主な取組	取組内容とこれまでの成果	今後の取組方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>・水戸スタイルの教育の推進</li> <li>・グローバルプランの推進</li> <li>・キャリアプランの推進</li> <li>・チャレンジプランの推進</li> <li>・ふれあいプランの推進</li> <li>・体力向上プログラムの推進</li> <li>・郷土水戸に関する教育の充実</li> <li>・国際理解教育の推進</li> <li>・芸術教育の推進</li> <li>・情報教育の推進</li> <li>・自然体験学習の充実</li> <li>・児童生徒や保護者の悩み・不安解消のための相談の充実</li> <li>・一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実</li> <li>・学校における食育の推進</li> <li>・学校における消費者教育の推進</li> <li>・大学等との連携による学校教育活動の推進</li> </ul>	<p>チャレンジプランの推進</p>	<p>児童生徒の学力向上を目指し、学力向上サポーターを活用した個に応じた学習指導を行ったほか、小学校新入生全家庭に学習習慣確立のためのパンフレット、全小学校4年生に家庭学習スタートノートを配布し、家庭学習の充実に努めた。また、小学校5年生、中学校2年生を対象に、学習定着状況調査を市独自に年2回実施し、課題の分析、授業改善等に取り組むなど、確かな学力の定着を図った。さらに、モデル校28校において放課後学力サポート事業を行うとともに、冬季休業中に中学校2、3年生の希望者を対象に市民センターで数学の学習相談を実施し、自ら学ぼうとする意欲の育成を図った。</p>	<p>学力の向上に向け、これまでの実績等を踏まえ、事業の充実を図りながら、課題のある学校や学年への支援を強化し、より実態に即したきめ細かな取組を推進する。学習定着状況調査(市)や学力診断のためのテスト(県)の結果から、授業改善のための指導主事による学校訪問を積極的に実施する。また、冬季休業中に実施している中学校2、3年生の希望者を対象とした数学の学習相談及び放課後学力サポート事業を33校に拡大し、実施する。さらに、スタートノートの活用例や家庭学習を身に付けるための実践例等を記載した「家庭学習指導資料集」を活用し、保護者との連携を図りながら、家庭学習の充実に努める。</p>

具体的施策（４） ワーク・ライフ・バランスの推進

重要業績評価指標 (K P I)	基準値 (2014 年度)	実績値					目標値 (2019 年度)	達成状況
		(2015 年度)	(2016 年度)	(2017 年度)	(2018 年度)	(2019 年度)		
ワーク・ライフ・バランスの推進に関する市民・事業所への研修会等の実施回数（累計）	2 回	13 回	23 回	34 回	45 回	50 回	25 回	209% 達成
仕事と子育ての両立に向けた就職応援セミナー参加者数[水戸市在住者]（年間）	35 人	55 人	41 人	49 人	53 人	28 人	120 人	0%未満 未達成

5 年間の取組事業	主な取組	取組内容とこれまでの成果	今後の取組方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業労務改善の支援</li> <li>・ 女性の活躍推進に向けた環境づくり</li> <li>・ 育児休業の取得の促進</li> </ul>	企業労務改善の支援	ワーク・ライフ・バランスを推進し、働く男女が家庭生活と仕事を両立できる環境をつくるため、県等の関係機関と連携しながら、事業所への研修会を積極的に実施した。また、企業の労働環境の向上に係る支援について検討を行った。	企業労務の改善に向け、企画内容の充実を図りながら、引き続き、市民・事業所への研修会等を実施する。また、企業の労働環境の向上については、他市事例の調査・研究など、支援方策の検討を進める。
	女性の活躍推進に向けた環境づくり	各種セミナー及び相談会等を開催し（2015～2019 年度延べ参加者数 2,136 人）、女性が活躍できる環境に向けた意識啓発の充実、機会の拡充に寄与した。また、ハローワーク水戸と連携しながら、仕事と子育ての両立を目指すマザーズ就職応援セミナーを実施し、子育て中の女性の就労に向けた取組を支援した。	女性の活躍推進に向け、働き方改革や育児・介護休業等の取得を促進するとともに、女性のための就業支援講座などを開催する。また、ハローワーク水戸との連携を強化し、課題である情報発信に注力しながら、マザーズ就職応援セミナーを実施するなど、多様な働き方の支援を推進する。

**基本目標Ⅳ 安全で安心、誰もが快適に暮らせるまちを創る**

**具体的施策（１） 都市機能の集積と交通ネットワークの形成**

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2014年度)	実績値					目標値 (2019年度)	達成状況
		(2015年度)	(2016年度)	(2017年度)	(2018年度)	(2019年度)		
中心市街地の歩行者通行量	109,800人	101,048人	100,297人	109,866人	106,543人	105,010人	126,300人	0%未満 未達成
路線バス利用者数 (1日当たり)	29,656人	29,830人	30,724人	32,589人	34,765人	35,123人	32,600人	186% 達成

5年間の取組事業	主な取組	取組内容とこれまでの成果	今後の取組方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ まちなか交通体系の確立                             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ まちなか公共交通の利用促進</li> <li>▶ 自転車利用環境の整備</li> <li>▶ 新たなバリアフリー基本構想の策定及び施策の推進</li> </ul> </li> <li>・ <b>地域公共交通の再編</b></li> <li>・ まちなか住替えの支援</li> <li>・ まちなか共同住宅の整備の促進</li> <li>・ <b>都市機能の集約・再配置の推進</b></li> <li>・ 水戸駅北口地区のまちづくりの推進</li> <li>・ 新たな市民会館の整備</li> <li>・ 泉町1丁目北地区市街地再開発事業等の推進</li> <li>・ <b>歩いて楽しめる道路空間の整備</b></li> </ul>	地域公共交通の再編	地域公共交通再編実施計画を策定し、バス路線の再編を進めるとともに、バス事業者との連携による、公共交通マップの作成や路線バス体験学習事業の実施など、公共交通の利用促進に取り組み、利用者数の増加に寄与した。	交通ネットワークの充実に向けて、再編したバス路線の利用実態を把握し、効果の検証等を行うとともに、引き続き、水戸市公共交通基本計画に位置づけた施策を実施し、利用促進や利便性の向上に取り組む。
	都市機能の集約・再配置の推進	コンパクトシティの構築に向け、立地適正化計画を策定し、都市機能誘導区域及び居住誘導区域を定めた。本計画に基づく各種施策を実施し、都市機能の集約に取り組むとともに、まちなか居住を推進した。	中心市街地の歩行者通行量は横ばいとなってしまったものの、戦略的に都市機能誘導区域への集約、公共交通ネットワークの充実、居住誘導区域への居住の推進等に取り組み本市の都市力の向上を図る。
	歩いて楽しめる道路空間の整備	歩いて楽しめるまちなかの形成やアクセス性の向上を図るため、南町地区において、道路改良・電線共同溝事業及び梅戸橋桜川線の道路改築工事を推進した。	魅力ある都市機能の充実に向けて、引き続き、本事業を実施する。

## 具体的施策（２） 既存ストック（住宅等）の再生，利活用

重要業績評価指標 (K P I)	基準値 (2014 年度)	実績値					目標値 (2019 年度)	達成状況
		(2015 年度)	(2016 年度)	(2017 年度)	(2018 年度)	(2019 年度)		
住宅リフォーム助成件数（累計）	—	—	—	75 件	253 件	465 件	690 件	67% 一部達成
J T I（移住・住みかえ支援機構）マイホーム借上げ制度の市内取扱店舗数（累計）	2 件	2 件	3 件	3 件	3 件	3 件	6 件	25% 未達成

5 年間の取組事業	主な取組	取組内容とこれまでの成果	今後の取組方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅リフォームの促進</li> <li>・住生活支援情報の提供</li> <li>・市営住宅の建替え及び長寿命化型改修の推進</li> <li>・民間住宅活用型市営住宅の供給</li> <li>・水戸駅北口駅前広場の再整備</li> </ul>	住宅リフォームの促進	安心住宅リフォーム支援補助制度を創設し，民間事業者と連携を図りながら，支援制度の利用促進に向けた取組を進めたことにより，助成件数が増加し，住宅リフォーム促進に寄与した。	空き家の再生や発生抑制に向け，既存住宅の活用促進を図るため，引き続き，民間事業者と連携し，制度の周知を行いながら，本事業を実施する。
	住生活支援情報の提供	民間事業者と連携し，J T I（移住・住みかえ支援機構）マイホーム借上げ制度周知のセミナーや空き家相談会を開催するなど，住生活支援に係る情報提供を行い，既存住宅の利活用を促進した。	空き家の未然防止に向け，課題であるマイホーム借上げ制度の周知に注力しながら，マイホーム活用セミナーや空き家相談会を開催し，既存ストックの利活用を促す。
	市営住宅の建替え及び長寿命化型改修の推進	河和田住宅や砂久保住宅の建替えを進めるとともに，老朽化している市営住宅の長寿命化型改修を実施し，市営住宅の安全性及び住居水準の向上に寄与した。	既存ストックの利活用による良質な住宅の供給に向け，長寿命化計画に基づき，本事業を継続する。

### 具体的施策（3） 住み慣れた地域で暮らし続けられる環境づくりの推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2014年度)	実績値					目標値 (2019年度)	達成状況
		(2015年度)	(2016年度)	(2017年度)	(2018年度)	(2019年度)		
水戸市安心・安全見守り隊 参加団体・事業者数(累計)	88 団体等	122 団体等	122 団体等	165 団体等	178 団体等	180 団体等	120 団体等	288% 達成
公的病院などの救急医 療等に係る医師数	261 人	266 人	270 人	272 人	280 人	275 人	261 人	— 達成

5年間の取組事業	主な取組	取組内容とこれまでの成果	今後の取組方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域コミュニティ活動の活性化</li> <li>・ボランティア団体、NPO等の活動の活性化</li> <li>・高齢者等の外出支援策の推進</li> <li>・災害時要配慮者支援の充実</li> <li>・地域包括ケアシステムの構築に向けた取組の推進</li> </ul>	地域包括ケアシステムの構築に向けた取組の推進	元気アップ・ステップ運動等の介護予防活動、認知症カフェの設置及び運営協力、住民主体の生活支援サービス活動の支援を実施するなど、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できる環境の創出に寄与した。	高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、引き続き、在宅医療・介護連携や生活支援体制整備を実施するなど、医療・介護予防、生活支援等を一体的に行う地域包括ケアシステムの構築に向けた取組を推進する。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域見守り・支えあいの推進</li> <li>・多世代交流の推進</li> <li>・緊急診療体制の充実</li> <li>・医療・福祉分野における人材の確保、雇用の促進</li> </ul>	地域見守り・支えあいの推進	積極的な参加呼びかけ等を行ったことから、見守り隊の参加団体・事業者数は大幅に増加し、高齢者等を見守る活動が着実に進められ、地域で安心して生活できる環境の創出に寄与した。	高齢者、障害者、子どもなど、支援を必要とする方が地域で安心して暮らせるよう、本事業を継続し、見守り隊のさらなる参加団体の拡大、見守り活動の充実を図る。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・産婦人科等の医師の確保</li> <li>・看護師の確保</li> <li>・介護従事者の確保</li> <li>・保育士の確保</li> <li>・生涯学習のしやすい環境づくりの推進</li> <li>・消費生活の向上</li> <li>・道路・公園ボランティアサポートの推進</li> </ul>	医療・福祉分野における人材の確保、雇用の促進 (産婦人科等の医師の確保)	周産期医療を担う水戸赤十字病院の支援など、産婦人科等の医師を確保するとともに、大学と連携し、休日夜間緊急診療所における小児科医の確保を図った。また、医学生への修学資金や医療機関開設を支援する制度を創設し、人材の育成・確保に取り組んだ。	市民が安心して医療サービスを受けることができる地域医療体制の一層の充実に向けて、支援制度の周知に努めながら、本事業を継続する。



#### 具体的施策（４） 危機対応力・防災力の高い体制づくりの推進

重要業績評価指標 (K P I)	基準値 (2014 年度)	実績値					目標値 (2019 年度)	達成状況
		(2015 年度)	(2016 年度)	(2017 年度)	(2018 年度)	(2019 年度)		
自主防災組織による防災訓練等の参加者数	8,000 人 (2012 年度)	12,721 人	13,264 人	13,992 人	14,039 人	9,300 人	10,000 人	65% 一部達成
浸水被害箇所数	201 か所	186 か所	223 か所	210 か所	204 か所	210 か所	108 か所	0%未満 未達成

5 年間の取組事業	主な取組	取組内容とこれまでの成果	今後の取組方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民協働による地域防災の推進</li> <li>・ 災害時要配慮者支援の充実</li> <li>・ 次世代防災リーダーの育成</li> <li>・ 水戸市雨水排水施設整備プログラムの推進</li> <li>・ 民間住宅・建築物の耐震化等の促進</li> </ul>	市民協働による地域防災の推進	各地区の防災活動の支援や自主防災組織による防災訓練等の積極的な促進を図るとともに、いっせい防災訓練を実施し、市民の防災意識の向上に寄与した。2019 年度については、新型コロナウイルスの影響により、参加者数が大幅に減少した。	地域防災の一層の強化・充実に向け、引き続き、自主防災組織による防災訓練等を積極的に促進するとともに、より実践的かつ効果的な訓練となるよう支援に努める。
	水戸市雨水排水施設整備プログラムの推進	浸水被害箇所を減らすため、集中的な整備を進めているものの、複数年かかる事業が多いこと、また、多発する集中豪雨により新たな浸水被害箇所が多く発生したことから、浸水被害箇所数が基準値を上回る結果となった。 (解消数：69 か所、新規数：78 か所)	安全・安心に暮らせる災害に強い都市基盤づくりに向けて、財源確保に努めながら、着実に浸水被害の解消を図るとともに、より効率的かつ効果的な対策手法を検討し、都市下水道、排水路、公共下水道等の整備など、総合的な雨水対策を推進する。
	民間住宅・建築物の耐震化等の促進	木造住宅の耐震診断士の派遣・耐震改修補助、民間建築物の耐震補助等を実施し、民間住宅・建築物の安全性を高め、防災力を強化した。	建物の倒壊等を防ぐため、引き続き、制度の P R を強化しながら、民間住宅・建築物の耐震化を促進する。

具体的施策（５） 自主・自立性の強化と広域連携による都市力向上

重要業績評価指標 (K P I)	基準値 (2014 年度)	実績値					目標値 (2019 年度)	達成状況
		(2015 年度)	(2016 年度)	(2017 年度)	(2018 年度)	(2019 年度)		
茨城県央地域定住自立圏における連携事項数	—	—	4 項目	7 項目	8 項目	8 項目	10 項目	80% 一部達成
北関東中核都市連携会議における連携事業数	—	2 事業	3 事業	3 事業	4 事業	4 事業	5 事業	80% 一部達成

5 年間の取組事業	主な取組	取組内容とこれまでの成果	今後の取組方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>茨城県央地域定住自立圏の取組の推進</li> <li>北関東中核都市連携会議における連携事業の推進</li> <li>中核市移行に向けた取組の推進</li> </ul>	茨城県央地域定住自立圏の取組の推進	県央地域首長懇話会及び定住自立圏共生ビジョン懇談会における協議を進め、水戸市と近隣 8 市町村において策定したビジョンに基づく事業を推進し、医療、福祉、地域公共交通、産業振興等の分野において、広域的な連携を図り、県央地域全体の活性化に寄与した。	持続可能な圏域づくりに向け、茨城県央地域定住自立圏共生ビジョンに基づく各種事業を着実に実行するとともに、必要に応じて内容の見直しを行うなど、適切な進行管理と評価を行いながら、取組内容の充実を図る。
	北関東中核都市連携会議における連携事業の推進	北関東 4 市が連携し、北関東 400km ブルベや首都圏における物産フェアを開催したほか、各市の魅力を発信する動画コンテストや映画を活用した取組を実施するとともに、市ホームページや SNS を活用し、各市の情報等の相互発信を行い、北関東圏域全体の魅力発信に寄与した。	北関東圏域全体の魅力や自主性・存在感の向上に向け、4 市の連携事業として、引き続き、首都圏における物産フェアを開催するとともに、動画コンテスト受賞作品やロケ地カードを活用した 4 市の魅力を発信するほか、新たな施策・事業展開に取り組む。